2015年度（H27）第1回　内部評価委員会の結果

1. 内部評価委員会の概要

2015年度第1回内部評価委員会においては、港湾空港技術研究所理事長をはじめとする研究所役職員で構成する委員により、2014年度に終了した研究実施項目の事後評価、2015年度の特定萌芽的研究（追加分）の採用候補の選定などを行うものである。

評価は、研究実施項目（終了13件、新規追加1件）、特定萌芽的研究（追加応募5件）について行われた。

2. 内部評価委員会の結果

2. 1　テーマ内評価会の開催状況

内部評価委員会に先立ち、研究テーマ毎にテーマ内評価会を開催し、2014年度の研究成果等について報告、とりまとめを実施した。

表－1　テーマ内評価会の開催状況

研究分野		研究テーマ		開催日時
1	安全･安心な社会を形成するための研究	1A	地震災害の防止、軽減に関する研究	4月17日(金)13:00～15:00
		1B	津波災害の防止、軽減に関する研究	4月9日(木)13:00～16:00
		1C	高波･高潮災害の防止、軽減に関する研究	4月23日(木)9:30～12:00
2	沿岸域の良好な環境を保全、形成するための研究	2A	海域環境の保全、回復に関する研究	4月8日(水)13:00～16:00
		2B	海上流出油･漂流物対策に関する研究	4月13日(月)13:30～15:30
		2C	安定的で美しい海岸の保全、形成に関する研究	4月7日(水)13:00～15:00
3	活力ある経済社会を形成するための研究	3A	港湾･空港施設等の高度化に関する研究	4月15日(水)10:00～12:00
		3B	港湾･空港施設等の戦略的維持管理に関する研究	4月17日(金)15:00～17:00
		3C	海洋空間･海洋エネルギーの有効利用に関する研究	4月23日(木)15:00～17:00

2. 2　内部評価委員会の開催状況

①　開催日時

2015年5月19日　10:00～17:00

2015年5月20日　10:00～18:00

②　評価対象

研究実施項目（2014年度終了13件、2015年度新規追加分１件）

特定萌芽的研究（2015年度追加分応募数5件）

③　出席者

委員長　高橋理事長

委　員　山本理事、栗山研究主監、村山統括研究官、
下迫特別研究官、山﨑特別研究官、高橋特別研究官、菅野特別研究官、
野口特別研究官、谷川特別研究官、岩井企画管理部長

オブザーバー　小島監事、大石監事

事務局　（野口特別研究官）　林課長補佐、藤森係長、上中係員

２．３ 研究実施項目の評価結果

2015年度の新規（追加）研究実施項目が1件あり、評価の結果は、総合評価として「計画通り推進」と判定された。

2014年度に終了した研究実施項目13件についての評価の結果は、総合評価については７件が「高い」と判定され、残り６件が「やや高い」と判定された。

表－２－１ 研究実施項目（2015年度新規追加）の評価結果

研究実施項目名	研究の必要性					実施しようとする研究内容				研究実施体制					総合評価
	社会的意義	科学技術上の意義	本研究所が行う必要性	研究ポテンシャルの向上	研究成果の波及効果	研究内容の明確性	研究内容の学術的水準	研究内容の実現可能性	関連研究動向調査	関連研究機関との連携	研究手順・手法	年度毎の研究計画	研究資源（研究者）	研究資源（予算・施設）	
1B-1501 三次元高精細津波遡上シミュレータの高度化	ある	ある	ある	ある	ある	明確	高い	高い	十分	適切	適切	適切	適切	適切	計画通り推進

表－２－２ 終了-研究実施項目の評価結果

番号	研究実施項目名	総合評価	研究成果					研究管理
			研究目標の達成度	学術上の成果のレベル	実用上の成果のレベル	成果の活用のレベル（将来性を含む）	研究ポテンシャルの向上	研究管理のレベル
1	1A-1201-オ-234 空港舗装下地盤におけるせん断抑制型改良の適用性に関する研究	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	高い	高い
2	1A-1202-キ-252 杭式構造物の耐震性能評価手法と補強方法の提案	高い	高い	やや高い	高い	高い	高い	高い
3	1B-1201-オ-152 最大級の津波を考慮した構造物の性能照査法の開発	高い	高い	高い	高い	高い	高い	やや高い
4	1B-1202-オ-400 津波に対する港内船舶の安全性向上策の構築	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い
5	1C-1201-カ-154 マルチスケール浅海域波浪計算システムを活用した高波災害リスク評価	高い	やや高い	高い	高い	やや高い	高い	やや高い
6	1C-1202-カ-132 中・長期気候変動による海象外力の変化の評価	やや高い	やや低い	やや高い	やや高い	やや低い	やや高い	やや高い
7	2A-1201-キ-112 沿岸食物網構造における生物の形態や行動の重要性に関する調査・実験	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い
8	2C-1201-カ-114 海浜流の変動を組み込んだ海浜地形変化予測手法の開発	やや高い	やや低い	やや高い	やや高い	やや高い	高い	やや低い
9	3A-1201-キ-212 港湾・空港施設の設計のための粘性土の強度・圧縮特性試験方法の提案	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い
10	3A-1202-カ-214 前面を固化改良した矢板壁の性能評価手法の開発	やや高い	やや高い	やや高い	高い	高い	やや高い	やや高い
11	3B-1202-オ-252 維持管理の高度化・省力化を考慮した桟橋の構造設計手法の構築	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い
12	3C-1102-オ-156 海洋エネルギー利用システムの港湾への適用に関する課題整理と解析	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い
13	3C-1201-オ-312超音波式三次元映像取得装置の小型・軽量化に関する研究	高い	高い	やや高い	高い	高い	高い	高い

２．４ 特定萌芽的研究（追加分）の評価結果

特定萌芽的研究は、将来のイノベーションにつながることが期待される研究であり、2015年度の充当可能と見込まれる研究費を勘案の上、その候補を選定する。

既に、昨年度末に開催された2014年度第２回内部評価委員会において、2015年度の特定萌芽的研究３件「現場型培養実験系と生物地球化学的分析による未知の炭素隔離課程の探索」「ＵＡＶ等による港湾・海岸施設の点検に関するフィジビリティスタディ」「ダムブレイク型の新津波造波方法の開発」を選定している。

今回は、2015年度追加分として特定萌芽的研究を所内公募し、応募があった5件の中から、表－３の通り「中間土の骨格構造に基づく力学特性の評価手法の提案」「水中作業機械の水中音響ビデオカメラ像の高品位化に関する検討」「屈折率マッチングによる地盤流動現象の3次元可視化」の3件を選定した。

表－３ 特定萌芽的研究の評価結果

番号	研究項目名	理由等
1	応力状態の可視化による吸出しに起因する地盤の陥没発生メカニズムの解明	－
2	港湾係留施設の劣化診断検査における音響・光学画像イメージング技術の検討	－
③	中間土の骨格構造に基づく力学特性の評価手法の提案	・学術的で堅実な研究である。 （なお、中間土の定義がやや不明確な点がある。）
④	水中作業機械の水中音響ビデオカメラ像の高品位化に関する検討	・音響画像を明確に判りやすくすることは重要な課題である。
⑤	屈折率マッチングによる地盤流動現象の3次元可視化	・プレゼンテーションも、試験素材の提示等、工夫を凝らし良かった。 ・現象把握から次のステップへの飛躍を期待する。

○印 ： 採用

以上